

# なすび

第39号

目次

1p~2p 年度末を迎えて  
2p~4p 部活動、行事報告

今後の予定  
編集後記

栃木県那須学園  
〒329-2132  
矢板市沢800  
TEL 0287-43-0573  
FAX 0287-43-6886  
メール nasu-gakuen  
@pref.tochigi.lg.jp  
発行日 令和4年3月14日

## 〈年度末を迎えて〉

那須学園の厳しい冬も終わりに近づき、一日一日と暖かくなるのを感じます。今年度も中学校三年生達の巣立ちの時期が近づいて参りました。職員一同、期待半分、不安半分で巣立っていく子ども達を見送りたいと思います。

◎一年を振り返って

園長 大島 登

寒さ厳しかった冬から春暖の候へと日差しの強さや暖かさが感じられるようになってきました。そして令和三年度も終わろうとしています。令和三年度を中心として、学園を離れた新たな生活を迎える季節にもなりました。

年度当初一六名だった児童は現在(二月中旬)一八名で例年に比べて入所する児童が少ない一年だったと思います。

今年度も新型コロナウイルスの状況に影響を受けざるを得ない状況が続いてきました。子ども達は学園の規則正しい生活を続ける中で、自分の課題

と向き合い仲間とともに成長を続けてきました。寮や学校での指導や仲間との関わりの中で他者との接し方をはじめ様々なことを身につけ、多岐にわたる活動や体験を通して精神的な逞しさも培われてきたと感じています。

学園の子ども達は、時期によって異なる部活動に参加しており、得意な種目にはいきいきと楽しく、不得意な種目であっても粘り強く取り組むことで、新たな興味・関心が芽生えるなど、自分自身の特性に気がつきつけになっていきます。

そして、これらの活動の成果を發揮する場として各種大会が開催されています。

今年度は、関東少年野球大会(六月)は会場や日程を分散する方式で開催されたものの、関東少年水泳大会(八月)、関東女子バレー大会(一〇月)、関東少年卓球大会(一一月)については担当施設の事情等もあつて中止となり、大会参加のために他県へ出向く機会は限定的になりました。また、それに替わるものとして、水泳記録会の実施や近県施設との交流試合が開催されました。本県が担当となっていた関東少年文

化祭(一一月)については、幸運にも新型コロナウイルスの状況が落ち着いていた時期でもあったため、会場内の入替を行う等の感染予防対策を講じた上で開催することができました。子ども達が一生懸命に取り組んできた吹奏楽の発表ができたことや参加いただいた施設の子ども達にも発表の場を提供できたことを嬉しく感じています。一方で、以前は参加できていた地域の文化祭やマラソン大会は今年度も開催されない状況が続きました。

また、分校とも協力しながら、遠足、海浜学校、修学旅行、スキー教室等が実施でき、子ども達にとつては貴重な経験を積むことが出来たと感じています。

本来、地域や関係機関の方々とは、運動会、学園祭、クリスマス会などの機会を通じて交流の場を設定してきており、特にクリスマス会には保護者の方々も御招待して、学園の状況や子ども達の成長の様子を見ていただく機会としていましたが、残念ながら今年度もご招待出来る状況にならず、学園内のみでの開催とさせていただきます。

招待者がいない中でも、学園祭で

の模擬店やクリスマス会での各寮の出し物などは、普段の生活では見られないそれぞれの個性が思う存分發揮されていました。

学園が保有する資産を活用した活動として、学園の水田や畑を活用したコメ作り(田植・稲刈り・はぎ掛け等)や野菜の植付・収穫などを実施し、自然の恵みに感謝する気持ちを育む機会となっています。学園の食事で提供されるコメの全量を学園の収穫米でまかなえている点は素晴らしいと感じています。

子ども達にとつては、ここでの生活や行事の一つひとつが貴重な体験であり、それらに真剣に取り組む姿勢を身につけることは大変重要な意味があると感じています。

子ども達がここで過ごした時間が、この先の人生を夢や希望を持って力強く生きていくための一助になることを願ってやみません。



# ☆部活動報告☆

## ☆吹奏楽部

六月から開始した吹奏楽部。子供達が職員と共に演奏をし、達成感を味わい、協調性を養うことを目指して吹奏楽の活動を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、演奏する機会が限られてしまいましたが、外部楽団との合同演奏会、関東少年文化祭、クリスマス会と演奏を重ね上達してきました。最後の発表会となったクリスマス会は、子供達だけの演奏をしました。二曲の演奏の他に、パート毎の発表でしたが、内容を自分たちで考えての発表でした。どのパートもよく考えて練習した様子が伝わる発表でした。ほぼ楽器初心者でスタートした今年度でしたが、楽器を吹く難しさと楽しさ、合奏の達成感を感じられたのではないかなと思っています。やれたという経験を、これからの生活場面での自信にしたいです。来年度こそは例年通りの練習、演奏会ができることを願っています。



## ☆卓球部

残念ながら、今年の卓球部もコロナの影響で関東大会を行うことができませんでした。それでも武蔵野学院、群馬学園、茨城学園が交流戦がしたいという話をしてくださり、四施設で対抗戦を実施することができました。結果は最下位ということになってしまいましたが、子ども達は最後まで一生懸命プレイしてくれました。この経験が子ども達の今後に生かされることを切に願っています。



# ☆行事報告☆

## ☆修学旅行

一〇月二七～二九日

十月二八・二九日に山形方面への修学旅行が実施されました。新型コロナウイルス感染症を鑑みて今年度も東北方面となりました。初めに訪れた上杉神社では全員で参拝し、山寺立石寺では、千段以上もある階段に汗を流しながら登り切りました。頂上のから見た景色は絶景で清々しさを感じました。二日目の朝には、旅館の目の前に広がる日本海を散歩し、自然の壮大さに感激していました。また、加茂水族館を訪れ、様々なクラゲや他の生物に見入っていました。最後の活動となるライン下りでは、紅葉の始まる山々を眺めながら、船頭さんの話を聞き、穏やかな時間を味わいました。

様々な活動を通して、子ども達は普段できない貴重な経験をする事ができました。行事が実施できたことへの感謝の気持ちを忘れずに修学旅行で学んだ社会性や公共のマナーを今後の生活に生かしてほしいと思います。

## ☆里芋収穫

一月五日

青空の下十一月五日に里芋の収穫を行いました。四月中旬に植えた里芋は順調に成長し、子ども達の背丈よりも大きく茎を伸ばし、立派に成長

しました。

昨年よりは小ぶりであったが、数多く収穫することができ、子ども達は土で服を汚しながらも時間いっぱい活動し、大地の恵みに感謝することができました。授業中では見ることのできない豊かな表情をしており、改めて授業の教え方を工夫し楽しみながら学ぶことの大切さを実感することができました。

秋の収穫が全て終了し、実りある一年になりました。次年度もさらに豊作になるように那須学園一丸となつて取り組みたいです。



☆第五十六回関東少年文化祭

十一月二日

関東地区児童自立支援施設の振興事業の一つであります。関東少年文化祭を真岡市民会館で開催しました。今年は、那須学園が事務局となるため、昨年度から準備を進めて参りました。昨年度からコロナウイルスの影響が危ぶまれ、準備の段階から制限が多く、県内の会場を色々当たりました。本来なら、参加施設が一同に集まり、一日を通して開催するところを、感染症対策をとり、午前、午後に分けて、二部制で実施いたしました。

当日は、十二施設中、十施設が参加し、各施設で練習を重ねてきた演目を発表しました。吹奏楽、歌唱、箏曲、ディアボロ等、様々な演目が披露されました。那須学園は、吹奏楽を発表しました。事務局担当者として、舞台袖で一部二部を通して拝見させていただきました。審査員の言葉の通り、『生きていくって素晴らしい』と思わせる演技ばかりで、ハラハラドキドキするものばかりでした。緊張しながらも一生懸命頑張る姿、手が震えながらマイクを握りしめて発表している姿、演奏が終わった後に「楽しい」と声を上げている子ども達の姿など、色々な施設の子ども達のたくましく生きる力を感じました。

☆さつまいも収穫

十一月五日

一月に行われたサツマイモ収穫。子ども達は土まみれになりながらも、楽しそうに時間いっぱいまでサツマイモを掘り起こし収穫していました。順調に生育したようですが、収穫するまでの半年間、様々な苦労があったようです。五月に植えた苗が根付かずに枯れてしまい、農園担当藤田さんの協力のもと、順調に成長している蔓を切り、挿し芽しながら苗の数を確保するなど、作物を育てる苦労を改めて実感することができました。子ども達にも、楽しい収穫のために多くの手間暇を掛けていることを学び、日頃頂いている食物に感謝して欲しいと思います。



☆収穫感謝祭

十一月十九日

十一月十九日(金)に収穫感謝祭を実施しました。今年も昨年同様に、新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策のため、各寮に分かれて餅つきを実施しました。開会式では、農作物への有り難み、食事を作ってくれている方へ日頃の感謝の気持ちを込めて、代表の児童がお礼の手紙を読み上げました。餅つきでは、苦戦しながらも美味しい餅が仕上がり、お腹いっぱい食べることができました。学園では一年を通して、稲作や野菜の収穫体験を行っています。子ども達には、当たり前のように頂いている食事の中には沢山の時間と手間が掛かっていることを改めて感じてほしいと願います。

☆クリスマス会

十二月二三日

例年ではお客様をお招きして、学園の皆でクリスマス会を開催していますが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、規模を縮小しての実施となりました。

第一部では、寮ごとに工夫を凝らした出し物や劇を発表しました。また、後半の吹奏楽発表会では、子どもたちそれぞれが自分の担当する楽器を紹介しながら練習してきた曲を堂々と発表しました。

第二部では、寮ごとにクリスマス昼食会を行い、お楽しみ会を催しま



した。途中、サンタクロースも登場し、一人一人プレゼントを手渡され、和やかな雰囲気です。子ども達も自然と笑みがこぼれ、楽しい思い出を作ることができました。

## ☆席書大会

一月一日

令和四年度最初の登校日に行われた席書大会。新型コロナウイルス流行のため、体育館での実施を余儀なくされた昨年の大会があまりにも寒く、あまりにも生徒の声がかきこえづらかったため、場所を会議室に戻して実施しました。決意の言葉を選び、作文を書いて発表の練習をするのはもちろん、習字道具の使い方から後片付けの仕方まで、一ヶ月前から準備をしてこの日を迎えた子ども達当日は、緊張しながらも立派に大会に挑む事ができました。

今年度の最優秀賞受賞作品は、「赤手空拳」。他に、優秀賞と特別賞二点が選ばれました。作品はすべて会議室前の廊下に掲示しましたが、「臨機応変」や「一生懸命」といった前向きな言葉が並んでいて、どの子どもも自分について適切に振り返り、この一年をしっかりと過ごそうと考えている姿が伝わってきます。



## ☆スキー教室

一月四日、二一日

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、未実施でした「スキー教室」でしたが、今年度は、何とか開催の運びとなりました。

年によっては雪不足の懸念も杞憂に終わり、二週間にわたり二度開催されました。大半の児童は未経験者でしたが、そこは若者達です。指導者の方々の指導のもとで元気づく活動し、早々とブルーク滑走を覚え、二回目の教室では行動範囲も広がり、中級コースで活動する場面も見られました。

スキーは、体験する条件が整わなくては活動できません。この機会は「とても貴重な場」だったと思います。園児達には「挑戦する心」をこれからも持ち続けてほしいと思いました。

## ☆マラソン大会

二月一日

二月十日に雪混じる天候の中、学園マラソン大会を実施し、園外のコースを男子四・二キロ、女子三キロの距離を全員が無事に走り切りことができました。大会までの練習は、三つの目的と成長のための三本柱を基に、毎日タイムを測定し、自分のベストに挑戦してきました。また、一人一役の役割を担うことで、チームに貢献する意識を育てると共

に、マラソンを通じて、人間的成長を促すことを目標に取り組んできました。日々前向きに練習に励む生徒、途中苦しい場面でもくじけそうにならながらも諦めずに走る生徒、チームの先生や各寮の先生方に励まされながら成果が大会に生かされ、ほとんどの生徒が自己ベストを更新しました。まどめのミーティングでも達成感や満足感が見られました。

今年度は、コロナ対策として寮対抗駅伝大会は実施できず、残念ではありましたが、次年度もより良い行事にしていきたいと思えます。



## 今後の予定

三月 一四日 卒業生を祝う式

三月 一八日 じゃがいも植え

三月 二四日 修了式

## 編集後記

令和二年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、例年よりも行事が行えず、窮屈な思いをした一年間でしたが、ウイルスまん延の小康状態を縫うように、様々な行事を実施する事が出来たと思います。関係機関の方々には面接面会制限等ご迷惑をお掛けすることもありました。様々なご支援ご協力をお寄せいただきありがとうございました。今後とも子ども達へ温かい声援をお願いいたします。

育成課

福田・石口・野澤